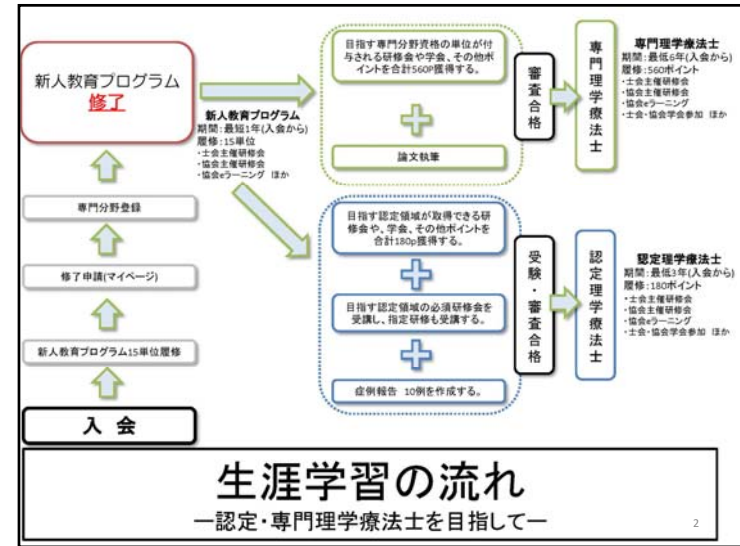




D-2 生涯学習と理学療法の専門領域

2020年4月

公益社団法人 日本理学療法士協会
生涯学習課



専門分野(2019年度現在)

- ・基礎理学療法
- ・神経理学療法
- ・運動器理学療法
- ・内部障害理学療法
- ・生活環境支援理学療法
- ・物理療法
- ・教育・管理理学療法

重要!

新人教育プログラム修了者は先ずそれぞれの専門分野に登録すること(マイページより登録可能 上記全てでも可)

認定制度の目的

- ・ピュアサイエンスとしての理学療法学の確立

専門理学療法士

- ・職能に資する実践理学療法学の推進

認定理学療法士

医療広告が可能な資格を！

- 医師⇒整形外科専門医・リハビリテーション科専門医など55資格
- 歯科医師⇒口腔外科専門医など5資格
- 薬剤師⇒がん専門薬剤師の1資格
- 看護師⇒老人看護専門看護師・訪問看護認定看護師など27資格

5

医療広告が可能な条件

医療広告ガイドライン(厚生労働省2007)

- イ 学術団体として法人格を有していること。
- ロ 会員数が千人以上であり、かつ、その八割以上が当該認定に係る医療従事者であること。
- ハ 一定の活動実績を有し、かつ、その内容を公表していること。
- ニ 外部からの問い合わせに対応できる体制が整備されていること。
- ホ 当該認定に係る医療従事者の専門性に関する資格(以下「資格」という。)の取得条件を公表していること。
- ヘ 資格の認定に際して、医師、歯科医師、薬剤師においては五年以上看護師その他の医療従事者においては三年以上の研修の受講を条件としていること。
- ト 資格の認定に際して適正な試験を実施していること。
- チ 資格を定期的に更新する制度を設けていること。
- リ 会員及び資格を認定した医療従事者の名簿が公表されていること。

6

専門理学療法士の分野

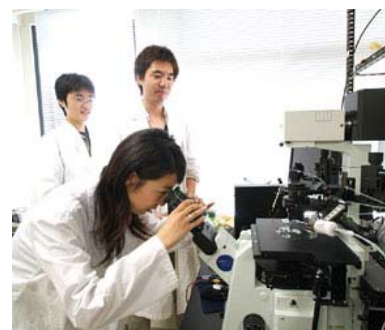
⇒全部で7分野あります。

認定理学療法士の領域

⇒全部で23領域あります。

7

基礎理学療法



- ひとを対象とした基礎領域
- 動物・培養細胞を対象とした基礎領域

8

神経理学療法



- 脳卒中
- 神経筋障害
- 脊髄障害
- 発達障害

9

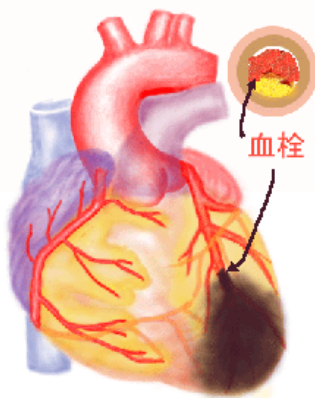
運動器理学療法



- 運動器
- 切断
- スポーツ理学療法
- 徒手理学療法

10

内部障害理学療法



- 循環
- 呼吸
- 代謝

11

生活環境支援理学療法



- 地域理学療法
- 健康増進・参加
- 介護予防
- 補装具

12

物理療法



- 物理療法
- 褥瘡・創傷ケア
- 疼痛管理

13

教育・管理理学療法



- 臨床教育
- 管理・運営
- 学校教育

14

認定・専門理学療法士制度

履修ポイントの基準概要

15

履修ポイントの内容概要1

学会に参加すると、何ポイント？

項目	履修ポイント
1) 日本理学療法学術大会(全国学術大会)	20ポイント
2) 専門分野学術大会	
3) WCPT、4) ACPT	
5) ブロック学会	15ポイント
6) 都道府県士会学会	10ポイント
7) 学際領域の学会	

※学際領域の学会は、協会が指定している学会や日本学術会議協力学術研究団体に登録している団体の学会のことを言う。

16

履修ポイントの内容概要2

研修会を受講すると、何ポイント？

項目	履修ポイント
1) 全国学術研修大会	20ポイント
2) 協会主催の講習会・研修会	
3) 都道府県士会主催の講習会・研修会	10ポイント
4) その他の講習会・研修会	5ポイント

※その他の講習会・研修会は、主催団体があらかじめ協会にポイント認証の申請をし、認められていなければならない。

17

履修ポイントの内容概要3

論文を執筆すると何ポイント？

項目	履修ポイント
1) 協会機関誌(理学療法学・JJPTA)の「研究論文・症例研究」の筆頭著者	80ポイント
2) 上記の共著者	10ポイント
3) 理学療法学・JJPTAの「短報」/その他査読付き雑誌の筆頭著者	40ポイント
4) 依頼原稿の筆頭著者	30ポイント

18

履修ポイントの内容の概要4

学会での発表は何ポイント？

項目	履修ポイント
1) 日本理学療法学会大会(全国学術大会)	シンポジスト等 15ポイント
2) 分科学会学術集会	一般発表の筆頭演者 10ポイント
3) WCPT・ACPT	
4) ブロック学会	シンポジスト等 10ポイント
5) 都道府県士会学会	一般発表の筆頭演者 5ポイント
6) 学際領域の学会	

19

履修ポイントの内容概要5

講習会の講師は何ポイント？

項目	履修ポイント
1) 協会主催講習会・研修会	20ポイント
2) 都道府県士会主催の講習会・研修会	10ポイント



重要! 講習会等の講師になるためには、専門または認定理学療法士の取得が必要となる。

20

履修ポイントの内容概要6 その他のポイント

査読ポイント	履修ポイント
1) 理学療法学等の論文査読	10ポイント
2) 都道府県士会発行雑誌の論文査読	5ポイント
3) 全国学会の演題査読	5ポイント
4) ブロック学会・都道府県学会の演題査読	2ポイント
臨床実習指導者としての業績	履修ポイント
6週間以上の実習指導	20ポイント
2～5週間以上の実習指導	10ポイント
大学院修了の読み替え	履修ポイント
修士課程(博士前期課程)修了もしくは博士課程(博士後期課程)修了	100ポイント

21

履修ポイント内容の概要6 その他のポイント

生涯学習機構が定める資格	履修ポイント
<ul style="list-style-type: none"> ・死体解剖資格 ・糖尿病療養指導士 ・3学会合同呼吸療法認定士 ・心臓リハビリテーション指導士 ・健康運動指導士 ・福祉住環境コーディネーター(1級) ・アスレティックトレーナー ・ ・ 	40ポイント

22

ポイント獲得の例 認定理学療法士の場合

申請に必ず必要なポイント	
1) 新人教育プログラム修了	20ポイント
2) 協会指定研修 受講	40ポイント
3) 各領域の必須研修会 受講	20ポイント
合計	80ポイント

180ポイント(申請に必要な合計) — 80ポイント(上記)
⇒あと100ポイント
(残りの100ポイントは、各領域での構成が異なる。)

23

重要! ポイント獲得の注意点

- 専門理学療法士の7分野・認定理学療法士の23領域では、それぞれ必要とするポイントの構成が異なっている。
- 特に、分野が異なる場合(例えば運動器と脳卒中の両方の認定を目指す場合など)には基準を慎重に確認する。

24

認定理学療法士

概要 職能に資する実践的理学療法学の推進としての認定理学療法士

取得条件

①専門分野に登録後、2年以上経過していること	③認定試験 認定試験を受験し、合格すること
②書類申請 ・ポイント申請:180ポイント ・症例報告 10例	

上記、②書類申請と③認定試験の両方の合格で、認定理学療法士の取得となる。

	ポイント数	内容
新人教育プログラム	20	新人教育プログラムを修了または免除されたもの
協会指定研修	40	講義テーマ「専門職の科学と倫理」、他
認定必須研修会	20	各領域ごとに開催される研修会
認定領域別必要ポイント	100	各領域ごとに100ポイントの内訳が異なる 詳細は こちら <small>をクリック</small>

25

認定理学療法士 例示:領域別必要ポイント

26

共通のポイント

全ての認定理学療法士は、以下の共通ポイント(60ポイント)を取得しなければならない。

	ポイント数	内容
新人教育プログラム	20	新人教育プログラムを修了または免除されたもの
協会指定研修	40	講義テーマ「専門職の科学と倫理」、他

重要!

ポイントの他に事例・症例報告(10例)、
基礎領域はレビューレポートが必要となります。

27

認定領域別必要ポイントの例 ひとを対象とした基礎領域、 動物・培養細胞を対象とした基礎領域の場合

	ポイント数	内容
自由選択ポイント*1*2	100	履修ポイント基準の大項目1~9に準ずるもの

- * 1学会参加のポイントと学会発表等のポイントを含めること
- * 2県士会主催の学会・講習会(研修会)のポイントはそれぞれ最大20ポイントまでとする

28

認定領域別必要ポイントの例 脳卒中の場合

	ポイント数	内容
必須研修会(脳卒中)	20	認定理学療法士(脳卒中)必須研修会
専門領域指定研修	40	研修会・講習会(履修ポイント基準大項目2の範疇で領域に関連したもの)への参加
選択研修*1*2	60	履修ポイント基準大項目に準ずる2つ以上の大項目を履修

- *1 学会発表・論文・著作等の場合は、「脳卒中」に関わる内容であること
- *2 その他の領域に係る研修会等での履修も可能だが、その合計は30ポイント以下であること

29

認定領域別必要ポイントの例 運動器の場合

	ポイント数	内容
必須研修会(運動器)	20	認定理学療法士(運動器)必須研修会
講習会・研修会の受講	80	研修会・講習会(履修ポイント基準大項目2の範疇で領域に関連したもの)への参加
学会参加*1	20	協会学術大会、分科会学会、WCPT、ACPT、ブロック学会、都道府県学会、関連学会(日本リハビリテーション医学会、日本運動器科学会)

- *1 ここに記載されていない学会はポイント対象外とする

30

認定領域別必要ポイントの例 循環の場合

	ポイント数	内容
必須研修会(循環)	20	認定理学療法士(循環)必須研修会
学会参加	20	研修会・講習会(履修ポイント基準大項目1の範疇で領域に関連したもの)への参加
選択研修	80	履修ポイント基準大項目1~6の範疇で領域に関連したもの

31

認定領域別必要ポイントの例 介護予防の場合

	ポイント数	内容
必須研修会(介護予防)	20	認定理学療法士(介護予防)必須研修会
選択ポイント1	60	介護予防に関するもの
選択ポイント2	40	運動器理学療法、神経理学療法、内部障害理学療法に関するもの

32

認定領域別必要ポイントの例 物理療法の場合

	ポイント数	内容
必須研修会(物理療法)	20	認定理学療法士(物理療法)必須研修会
学会発表	20	物理療法に関する発表
研修会・講習会・学会参加、 関連資格等*1	80	研修会・講習会・学会は物理療法に関連した内容で、物理療法実施に必要な知識・技術の内容であること

*1 関連資格とは物理療法に関連した資格とする。

33

認定領域別必要ポイントの例 臨床教育の場合

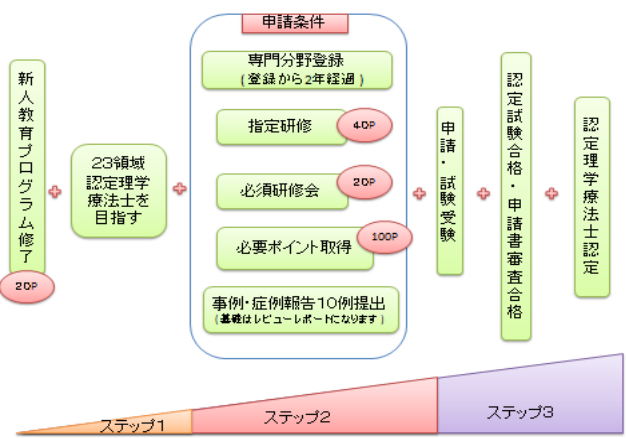
	ポイント数	内容
必須研修会(臨床教育)	20	認定理学療法士(臨床教育)必須研修会
講習会・研修会の受講 学会発表*1*2	100	学会参加は履修ポイント基準大項目1の範囲で認定領域に関連したもの。

*1 県士会主催の講習会(研修会)のポイントは最大20ポイントまでとする

*2 臨床実習指導者としての業績は1申請につき40ポイントまでとする

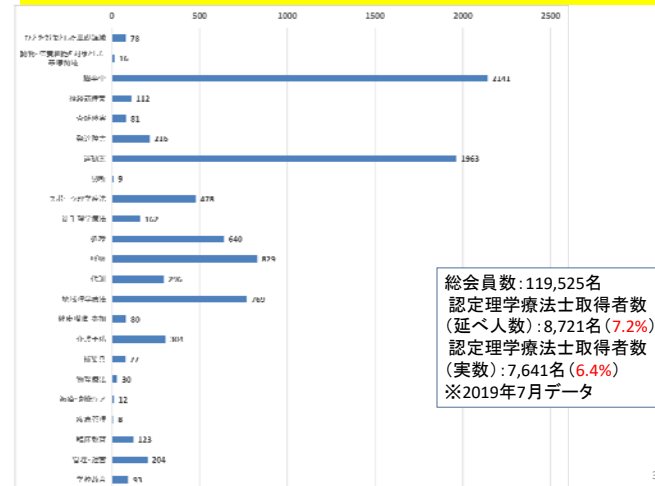
34

認定理学療法士取得の流れ



35

認定理学療法士の実態



36

認定・専門理学療法士制度

専門理学療法士

37

専門理学療法士の分野

専門分野	
1	基礎理学療法専門分野
2	神経理学療法専門分野
3	運動器理学療法専門分野
4	内部障害理学療法専門分野
5	生活環境支援理学療法専門分野
6	物理療法専門分野
7	教育・管理理学療法専門分野

38

専門理学療法士の履修要件

必要なポイント数・・・560ポイント

	説明	必要ポイント数
I 学術ポイント	研究に関する業績または、 学術の発展に寄与する業績	200
II 教育ポイント	指導的働きかけ、あるいは後進の 育成に寄与する業績	100
III 分野別ポイント	各専門分野が個別に指定した業績	80
IV 臨床実践ポイント	認定理学療法士を有する、 もしくは、それと同等の業績	180



専門理学療法士取得には論文(査読付き)
が必要です。

39

専門理学療法士 履修ポイントの具体例

- 基礎
- 神経
- 運動器

40

基礎理学療法専門理学療法士 履修要件

※必要ポイント数・・・560ポイント(内訳は、下記専門分野ごとの履修要件表を参照して下さい。)

大項目	項目	I 学術ポイント 200ポイント必要			II 教育ポイント 100ポイント必要			III 分野別選択ポイント 80ポイント必要			IV 臨床実践ポイント 160ポイント必要		
		必須	選択	備考	必須	選択	備考	必須	選択	備考	必須	選択	備考
1	学会参加	1-4	○	100ポイントまで認める。									
2	講習会・研修会等の受講	1-7											
3	論文・著作物等「査読付き」	7-3	○	研究論文(査読)を1編以上、査読研究は対象外とする。									
4	論文・著作物等「査読付き」	2-4											
5	論文・著作物等	2-5											
6	学会発表等	1-9	○										
7	講習会・研修会等の講師	1-4											
8	論文・学芸発表等の受講	1-4											
9	大学修了の読み替え	1	○										
10	臨床実習指導者としての受講	4											
11	生涯学習機構が定める資格												
12	10年教育プログラム修了												
13	認知理学療法士資格												
14	臨床研修施設での指導者・指導補助者(履修・検定)												

注:ポイント業績は申請する専門分野に関連があること。また、ポイント業績の妥当性については生涯学習機構が審査する。
 注:分野別選択ポイントにおいて、専門理学療法士(基礎)必須発表会の申込にあたっては、I学術ポイント、II教育ポイント、IV臨床実践ポイントを取得済みであること。
 注:認定理学療法士資格は、180ポイントに認められる。

神経理学療法専門理学療法士 履修要件

※必要ポイント数・・・560ポイント(内訳は、下記専門分野ごとの履修要件表を参照して下さい。)

大項目	項目	I 学術ポイント 200ポイント必要			II 教育ポイント 100ポイント必要			III 分野別選択ポイント 80ポイント必要			IV 臨床実践ポイント 160ポイント必要		
		必須	選択	備考	必須	選択	備考	必須	選択	備考	必須	選択	備考
1	学会参加	1-4	○										
2	講習会・研修会等の受講	1-7											
3	論文・著作物等「査読付き」	7-3	○	研究論文(査読)または、研究論文(査読)を1編以上とし、その妥当性は生涯学習機構が審査する。									
4	論文・著作物等「査読付き」	2-4											
5	論文・著作物等	2-5											
6	学会発表等	1-9	○										
7	講習会・研修会等の講師	1-4											
8	論文・学芸発表等の受講	1-4											
9	大学修了の読み替え	1	○										
10	臨床実習指導者としての受講	4											
11	生涯学習機構が定める資格												
12	10年教育プログラム修了												
13	認知理学療法士資格												
14	臨床研修施設での指導者・指導補助者(履修・検定)												

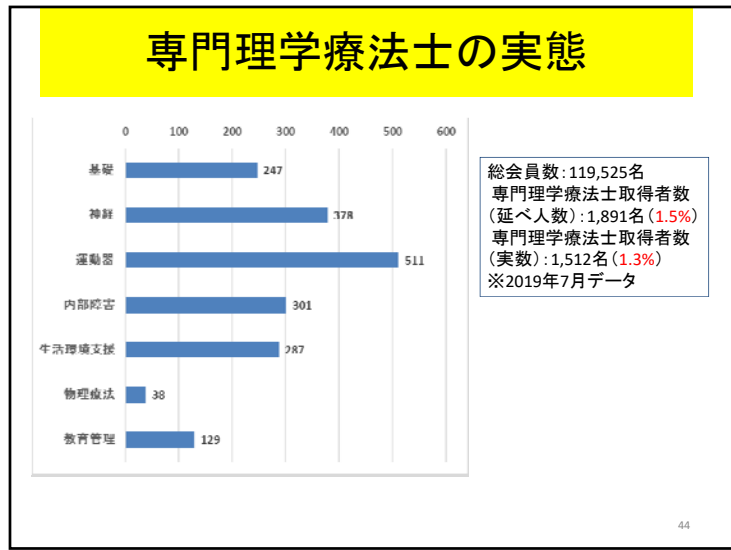
注:ポイント業績は申請する専門分野に関連があること。また、ポイント業績の妥当性については生涯学習機構が審査する。
 注:認定理学療法士資格は、180ポイントに認められる。

運動器理学療法専門理学療法士 履修要件

※必要ポイント数・・・560ポイント(内訳は、下記専門分野ごとの履修要件表を参照して下さい。)

大項目	項目	I 学術ポイント 200ポイント必要			II 教育ポイント 100ポイント必要			III 分野別選択ポイント 80ポイント必要			IV 臨床実践ポイント 160ポイント必要		
		必須	選択	備考	必須	選択	備考	必須	選択	備考	必須	選択	備考
1	学会参加	1-4	○	100ポイントまで認める。									
2	講習会・研修会等の受講	1-7											
3	論文・著作物等	7-3	○	研究論文(査読)を1編以上、査読研究は対象外とする。									
4	論文・著作物等	2-4											
5	論文・著作物等	2-5											
6	学会発表等	1-9	○										
7	講習会・研修会等の講師	1-4											
8	論文・学芸発表等の受講	1-4											
9	大学修了の読み替え	1	○										
10	臨床実習指導者としての受講	4											
11	生涯学習機構が定める資格												
12	10年教育プログラム修了												
13	認知理学療法士資格												
14	臨床研修施設での指導者・指導補助者(履修・検定)												

注:ポイント業績は申請する専門分野に関連があること。また、ポイント業績の妥当性については生涯学習機構が審査する。
 注:認定理学療法士資格は、180ポイントに認められる。



マイページの活用



45

マイページの活用 (履修の確認について)



46

マイページの活用 (履修の確認について)



47

マイページの活用 (履修の確認について)



48

今後の展望

- ジェネラリストとしての品質を保証する登録理学療法士とスペシャリストとして差別化できる認定理学療法士・専門理学療法士を確立する。
- 臨床という職能に対応した認定理学療法士の充実と学術という職能に対応した専門理学療法士の深化を目指す。
- 課題やテーマに対応した職域認証領域の研修制度を構築する。
- 総合理学療法士の定義づけと構築を検討する。

- 幅広い総合的な生涯学習を重要視、基盤とする
- 優れた生涯研修の上に、専門研修を位置付ける